

1 2010(平成22)年度に実施した主な事業

1 第5次長期計画について

第5次長期計画は、2010年度から10年間にわたって展開する全学の行動計画である。2010年度は、2009年度に策定した「グランドデザイン」並びに「アクションプラン」に基づき、大学が有する「教育」、「研究」、「社会貢献」、「大学運営」、「財政・施設整備計画」といった5つの機能毎の諸課題について、それぞれ各部局において「実施計画案」を作成し、審議決定した事業から順次実施した。そのなかでも、特に「管理運営体制の整備」や「広報基本戦略の策定」等に関する課題においては2010年度内に一定の成果を出しており、2011年度以降においても、諸事業を実施すべく鋭意検討及び推進をしていく。

● 第5次長期計画推進体制の整備

これまでの計画は1期10年の「長期計画方式」であったが、第5次長期計画では計画期中における社会環境の変化や文教政策動向、さらには計画当初に展開した施策の成果と課題を踏まえ、適宜、改善を図りながらグランドデザインで掲げた「2020年の龍谷大学像」を実現すべく、1期5年の中期計画を2期にわたって展開する「中長期計画方式」を採用した。

2010年度においては、事業推進を実質化させることを目的に、事業実施主体の責任をより明確にするとともに、改善サイクルを意識した事業の進捗管理に取り組んだ。また、第5次長期計画の中でも、全学的な検討を要する課題等については、大学執行部の下に、全学横断的な検討プロジェクトを設置し、環境分析や将来性、全学への影響等を踏まえながら多様な観点から実施計画を検討した。

● 管理運営体制の整備

学校法人を取り巻く環境は急速に変化しており、学校法人がこのような様々な環境変化に対して主体的、機動的に対応していくためには学校法人の管理運営体制を充実・強化する必要がある。このような認識に基づいて、「理事・評議員体制の充実による意思決定体制の強化」を図るとともに「常任理事会の整備及び専務・常務理事会の新設による執行体制の強化」に取り組み、本法人の寄附行為を変更して、2011年4月から管理運営体制を充実させた。

● 広報基本戦略の策定

大学が持つ公共性を踏まえると、広報活動を通じて大学が取り組む諸活動を社会に示し、説明責任を果たしていかなければならない。また同時に、大学広報の果たすべき役割は年々重要度を増しており、大学の教育・研究・社会貢献活動に加え、大学の理念や経営方針等、あらゆる情報を広く社会へ発信し、高い評価を獲得していくことが求められる。このような認識に基づき、本学の社会的評価や大学イメージを向上させ、新たな龍谷ブランドの定着をめざして広報基本戦略を策定した。

● 「龍谷スタンダード」の形成に向けた取り組み

第5次長期計画で位置付ける「龍谷スタンダード」は、大きく①「建学の精神に基づいた『人間力』と共生の精神の涵養」、②「各教学主体の教育を通じて身につけるべき力」

の2点から構成する教育を実施する枠組みを形成することを目的としている。2010年度はこの枠組みを形成するにあたり、その根幹となる「3つの方針(ポリシー)」に沿って、教育目標の実現と学生の学習成果をいかに達成させるかという視点に基づいて検討を行った。

● 教養教育の再編に向けた取り組み

第5次長期計画の展開に先駆け、学位の質保証や教育水準の維持・向上等を目指す「3つの方針(ポリシー)」(学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針、入学者受け入れの方針)を策定した。今後、これらの方針に基づいた教育に取り組むにあたり、教養教育の役割は極めて重要になるとの認識のもと、第5次長期計画のアクションプラン「学士課程教育の充実と学位の質保証」の中では、組織体制の改革も含めた「教養教育のあり方の検討」を課題として位置付けた。2010年度は、各学問分野の枠を超えて教養教育全体を大所から俯瞰できるように教養教育を位置づけ直すこと、その組織運営体制を強化することを改革の両軸として議論を進めることを確認した。

● 全学的な浸透に向けた取り組み

第5次長期計画では、アクションプランに基づき、全学で50を超える事業に取り組んでいる。これらを展開していくにあたり、全ての本学構成員が改革推進の一翼を担う意識を発揚し、全学的な事業として改革の機運に繋げて大学全体を盛り上げていくことを目的に、インナーコミュニケーションツールとして、「Ryukoku Vision 2020 Concept Book」を作成し、全ての本学構成員に配付した。

2 各学部収容定員の変更

近年、少子化の到来によって、大学をめぐる経営環境は厳しくなり、全入時代を迎えるようになった。閉鎖に追い込まれる大学ある一方で、マスプロ教育の展開や、学位の安売りなどを行う大学も現出し、高等教育の質的低下が懸念されるようになった。こうした状況を踏まえ、文教政策そのものが質保証の観点から定員管理を厳格化する方向にある。本学においても定員管理の厳格化を通じて質保証に努め、高等教育機関としての社会的使命を全うしつつ、社会的評価を高めていくことが重要である。このような認識のもと、本学への進学状況に対応し有為な人材の育成を進めるとともに、現在の入学状況に基づいた安定的な財政基盤を築き、大学運営の持続性を担保することを目的に各学部の収容定員を次のとおり変更した。

学部	学科・専攻	変更前	変更後
文学部	真宗学科	582	626
	仏教学科	468	496
	哲学科哲学専攻	282	306
	哲学科教育学専攻	384	408
	史学科国史学専攻	282	306
	史学科東洋史学専攻	282	306
	史学科仏教史学専攻	282	306
	日本語日本文学科	384	408
	英語英米文学科	384	408
経済学部	現代経済学科	1,214	1,334
	国際経済学科	810	890
経営学部	経営学科	1,790	1,890
法学部	法律学科	1,370	1,610
	政治学科	446	0
理工学部	数理情報学科	332	364
	電子情報学科	332	364
	機械システム工学科	364	404
	物質化学科	332	364
	情報メディア学科	328	364
	環境ソリューション工学科	328	364
社会学部	社会学科	680	780
	コミュニティマネジメント学科	420	480
	地域福祉学科	540	620
	臨床福祉学科	520	600
国際文化学部	国際文化学科	1,740	1,860
政策学部	政策学科	0	1,010
合計		14,876	16,868

3 政策学部・政策学研究科の設置準備(2011年4月開設)

法学部では、1992年の政治学科増設以来、政治学分野を教育の柱の一つとして位置付けて教学を展開し、NPO・地方行政コース等をはじめとする多様な取り組みは、国や地域社会から高い評価を得てきた。このような知的資源やこれまでの活動の成果をさらに発展させるため、政治学科の教学資源を中心としながら狭義の政治学の枠を越えた学際性を有する政治系の学部及び大学院を設置することが求められるとの認識のもと、法学部政治学科を発展的に改組して政策学部及び政策学研究科を設置することを決定し、教学内容の検討や行政手続き等の各種準備活動を進め、2011年4月から開設することとなった。

●政策学部設置の目的及び概要

建学の精神に基づいて、共生の哲学を基礎に、政策学の教育と研究を通じて広い教養と専門的な知識を身につけ、社会の持続可能な発展のために主体的に行動するとともに、自ら発見した問題を社会と連携して解決できる、高い公共性と市民性を持つ自立的な人材を育成することを目的とする。

入学定員：250名、編入学定員：5名、

収容定員：1,010名

学 位：学士（政策学）

●政策学研究科設置の目的及び概要

<修士課程>

市民的公共性と持続可能な発展への貢献を志向性として獲得し、地域がかかえる具体的課題を政策分析の対象として扱うことができる政策学の学問的知識を修得し、地域の課題を設定して解決できる能力を有する専門的職業人及び研究者を養成することを目的とする。

<博士後期課程>

市民的公共性と持続可能な発展という考え方を自ら考察でき、地域課題を包括的かつ統合的な政策によって解決できる政策学の知識と構想力を有する研究者及びより高度な専門的職業人を養成する。

入学定員：<修士課程>20名、

<博士後期課程>3名、収容定員：49名

学 位：<修士課程>修士（政策学）、

<博士後期課程>博士（政策学）



4 短期大学の改組（2011年4月開設）

短期大学部は、これまでの社会福祉学教育の実績を礎とし、社会福祉科を社会福祉学科に名称変更し、教学内容を「社会福祉コース」「教養福祉コース」の2コース制へと整備し、新たにこども教育学科を開設すべく、教学内容の検討や行政手続き等の各種準備活動を進め、2011年4月から開設することとなった。

●社会福祉学科改組の目的及び概要（2011年度改組）

福祉の基礎を学ぶことで「共生」の理念を具体的に理解し、その上でより専門的な立場から福祉領域や、それ以外の領域において幅広く活躍できる人材育成を目的として、社会福祉学科を設置し、社会福祉コース、教養福祉コースの2コースを置く。

入学定員：130名 社会福祉コース（定員80名）、
教養福祉コース（定員50名）

学 位：短期大学士（社会福祉学）

●こども教育学科設置の目的及び概要（2011年度設置）

福祉の基礎を学ぶことで「共生」の理念を具体的に理解し、その上でこれからのこども教育や保育において真に求められるものを追究する人材育成を目的として、こども教育学科を設置する。

入学定員：90名

学 位：短期大学士（こども教育学）

5 龍谷ミュージアムの設置準備（2011年4月開館）

創立370周年記念事業として開設する「龍谷ミュージアム」は、世界に誇りうるミュージアムとして、学内外から広く期待されている仏教に関する総合博物館である。2011年4月5日の開館に向け、2010年度に推進した事項は次のとおりである。

●ミュージアム施設の建築

西本願寺正面の本願寺会館及び本願寺同朋センターの跡地に「龍谷ミュージアム」の建物（地上3階地下1階）を約1年半の歳月をかけて建築し、2010年7月に完成し、同年9月に竣工式を挙行了た。

●展示に関する検討・準備

展示設備については、2008年度末に策定した展示設計図に基づき、多様な資料の効果的な展示、来館者にとって観やすいデザインや配置、加えて安全性にも考慮して構築した。また、ベゼクリク石窟を復元した原寸大の回廊、フルハイビジョンの4倍以上の画質を誇る4Kシアター、多機能の音声ガイド等の開発等も行い、視覚・聴覚を通じて体感できる展示機能を設けた。なお、2階展示室を「アジアの仏教」、3階を「日本の仏教」に分け、仏教の起源から現代の仏教までを概観できる内容として、2012年度以降に開催できるよう検討、準備を行った。また、2011年4月から親鸞聖人750回大遠忌法要が修行されることから、龍谷ミュージアム開館及び親鸞聖人750回大遠忌法要記念と位置付け、仏教の源流をたどり釈尊や親鸞聖人の足跡等を紹介する「釈尊と親鸞」の特別展を開催するための準備を進めた。

●研究プロジェクトの設置

「龍谷ミュージアム」における展示や関連する事業等とその研究成果を公開することを前提に、展示内容の充実、資料の保存や修復の推進及びその他の博物館活動と連携した共同研究を実施するため、ミュージアム教員を中心とする「釈尊とアジアの仏教」、「親鸞と日本の仏教」、「常設展示のための展覧手法の研究」の3つの研究プロジェクトを設置し、積極的に研究活動を推進した。



撮影：東出 清彦

6 教育・研究環境及び学生生活環境の充実

●大宮学舎「白亜館」の竣工

2011年2月に大宮学舎清風館南校地に仏教研究の拠点となる研究新棟を竣工した。「白亜館」は、大宮学舎の研究環境充実のために建設し、2010年度の文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業として採択された「アジア諸地域における仏教の多様性とその現代的可能性の総合的研究プロジェクト」をはじめ、本学の仏教研究の中心的役割を担う「仏典翻訳部」、「西域文化研究所」、及び「現代インド研究センター」が活動を行う研究棟として利用する。



●深草学舎新棟の建設準備

政策学部の新設に伴い必要となる教育環境の整備及び深草学舎における施設整備を進めるため、テニスコート、ハンドボールコート跡地に新棟を建設するための準備を進めた。

●アバンティ響都ホールの運用開始

2010年4月に京都市から京都駅南の複合ビルにあるアバンティホールを取得し、「龍谷大学アバンティ響都ホール」としてオープンした。本施設は、学生の課外活動の練習・発表会場や、本学の生涯学習講座や公開講演会の会場として利用するとともに、学外者にも貸出を行い広く活用されることを目的として運用を開始した。



●「龍谷荘」の取得

長期合宿、短期合宿、短期留学生の受入等の課外活動合宿施設として使用していた龍谷荘の賃貸借契約の終了を契機に当該施設を取得し、これまでと同様、積極的に活用していくこととなった。

7 多様な研究の推進

●文部科学省「2010年度私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」に採択

文部科学省「2010年度私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」において、「アジア諸地域における仏教の多様性とその現代的可能性の総合的研究（アジア仏教文化研究センター 代表：桂紹隆文学部教授）」「死生観と超越－仏教と諸科学の学際的研究（人間・科学・宗教オープン・リサーチ・センター 代表：鍋島直樹法学部教授）」が新たに採択され研究活動を開始した。

●大学間共同利用機関人間文化研究機構「地域研究推進事業」に採択

大学間共同利用機関人間文化研究機構が実施する地域研究推進事業として「現代インド地域研究拠点」が採択され、京都大学、東京大学等の研究機関との連携を図りつつ5年間の委託研究事業としてスタートした。

8 東日本大震災における本学の対応について

本学では、地震発生直後から「危機対策本部会議」を設置し、在学生の安否確認を行うとともに、在学生及び2011年度入学予定の被災学生等に対して、履修登録日の延長措置及び経済的支援（災害学費援助奨学金の給付、災害給付奨学金の給付等）、学生生活支援（帰省等費用給付金、住居の無償提供）等の多様な支援策を講じることとした。